

第2回庄内地区中高一貫教育校設置に係る懇談会 会議要録

|  |   |
|--|---|
| 開催日時   | 平成30年11月20日(火) 19:00~20:20  |
| 場所   | 酒田市公益研修センター2階 中研修室2   |
| 出席者  | <p>○出席委員<br/>         神田 直弥委員、富士 直志委員、弦巻 伸委員、後藤 守委員<br/>         小野寺 良行委員、中條 祐委員、西塚 裕恭委員、高橋 健委員</p> <p>○欠席委員<br/>         菅原 俊樹委員</p> <p>○酒田市<br/>         酒田市企画部長 阿部 勉<br/>         酒田市教育委員会教育部長 菅原 司芝</p> <p>○事務局<br/>         酒田市企画部企画調整課長 莊司 忠和<br/>         酒田市企画部企画調整課長補佐 中村 慶輔<br/>         酒田市企画部企画調整課企画調整係長 関口 誠</p> |
| 傍聴者  | 2名  |
| <p>1 開会(事務局)</p> <p>2 第1回懇談会概要報告(事務局)</p> <p>3 議事</p> <p>議長</p> <p>それでは、これより議事に入ります。はじめに庄内地区への中高一貫教育校設置について、協議を行いたいと思います。</p> <p>お手元に配布されております前回懇談会の会議要録でも確認できますが、前回の懇談会において、次回はテーマをしばらく協議させていただきたいと私からご提案させていただきました。その時にご提案させていただいたテーマが、一点目については、庄内地区に中高一貫教育校を設置すべきかということ、二点目については、県が示す設置場所、設置時期についてどうお考えかということでございました。ですので、まずはこの2点について協議していきたいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>各委員<br/>         異議なし。</p> <p>(1) 庄内地区への中高一貫教育校設置について</p> <p>議長</p> <p>ありがとうございました。それでは、はじめに庄内地区に中高一貫教育校を設置すべきかということについて、協議をしたいと思います。どなたかご意見等のある委員の方はいらっしゃ</p> |   |

いますでしょうか。

## 委員

前は県の担当の方から資料をもとに説明を受けて、いくつか質問をする中で理解を含めた段階かと思っています。今回は2回目ということで、議長より議論の方向性なども示されましたので、意見を述べたいと思います。

庄内に設置される予定の中高一貫教育校は、鶴岡南高校と鶴岡北高校を統合させ、そこに新しく県立の中学校をつくるという構想のようです。酒田の高校で言いますと、酒田東高校と酒田西高校が統合するというような捉え方かと思います。鶴岡北高校、酒田西高校、いずれもかつては女子高でしたが、現在は共学となっており、ほとんどが進学するという高校になっています。中高一貫教育校の高校は理数科1クラス、普通科6クラスの7クラス、280名で考えているようです。中学校は2クラスから3クラスで考えているようです。東桜学館は3クラス99名です。中学校が少数で高校が多数となりますと、中高一貫教育の意味がないのかなと考えています。それから、問題は、校舎が離れていることです。歩けば5～6分かかります。中高一貫教育校といっても、これでは交流はないのではないのでしょうか。そこが東桜学館と大きく違っているところです。校舎が離れている中でスタートすることとなります。離れていても果たして本当の意味で中高一貫教育校と言えるのか疑問が残ります。鶴岡の方であればご存知かと思いますが、鶴岡南高校のすぐ隣には、鶴岡工業高校があります。鶴岡南高校と鶴岡工業高校の校舎を使うのがベストではないかと思いますが、学校の性格があるのでそういった判断をしたのだと思いますが、比較的離れている校舎で設置をするという状況です。

また、もしそうなった場合、酒田の小学校、中学校、高校にどういった影響があるのかと推察しますと、仮に県立中学校の定員が100名として、その3分の1あるいはそれを超える数の子どもが酒田から鶴岡に行くかもしれません。例えば、30名の子どもが酒田から鶴岡に行くとしたら、成績の良い子どもばかりではないかと思いますが、皆様、試験問題をご覧になったかと思いますが、総合問題となっています。けっこう難しい問題です。一つの問題に国語、算数、理科、社会、全部入っています。ちゃんと勉強して臨まないとは解けない問題です。ですので、塾などもできるとは思いますが、それなりに準備をしないとなかなか合格点は取れないと思います。

東桜学館を見てもそうなのですが、優秀な子、意欲的な子がほとんどです。そうしますと、酒田が飛島中を除いて中学校が7校ですので、一つの中学校で平均4～5名、特定の中学校がぐっといなくなって、そうはならない中学校もあるかもしれませんが、それだけ子どもが抜けることとなります。そんなに大きな影響は出ないのかもしれませんが、学習指導、生徒会指導、部活指導に影響がでることと思います。小学校では、中高一貫教育校を受けたいと相談があった場合は、何らかの指導をするという状況が出てくると思います。東桜学館の試験を見て思うのですが、こういった指導をしていくのは先生方とても大変なのではと思います。教育相談も出てくると思います。そういった対応も必要になると思います。

中学校は酒田市の中学校に行ったけれど、高校から入学したいという子どもも出てくると思

います。酒田の子どもが占める数が1学年の3分の1、およそ100名とすれば、60～70名の子どもが新たに中高一貫教育校の高校に入学するということになります。これはけっこうな数です。

私は、高校に勤めていた経験があるのですが、そうすると高校は壊滅的な状況になると思います。酒田東高校、酒田西高校は進学校ではなくなると思います。100名ほどが鶴岡に行けば影響はかなり大きいです。今、国公立大学には酒田からは100名ほどしか行っておりません。自分の希望する大学に地元の高校からいけなくなると思います。お医者さんや先生になりたいとなれば、中高一貫教育校にいかざるを得ない状況にいずれなると思います。

親としては、子どもが行きたいとなれば行かせたくなるのが親心ですが、通学が大変になると思います。自転車で酒田駅に行って、鶴岡駅からまた自転車で高校に行く。1時間ではとても間にあわないと思います。電車で勉強するという人もいると思いますし、電車通学が悪いと言っているわけではないのですが、部活動をできない子が出てくると思います。鶴岡の子はできて酒田の子はできないといった状況になると思います。総合的に考えれば、経済的にも精神的にも負担がかかるだろうと思います。それでも目標を達成するために行きたいという子どももいるかと思いますが、やはり大変なのではと思います。

東桜学館でも似たようなことがおきていて、山形市やもっと遠くから通っている子もいますが、高校からは地元がいいのではと思うこともあると思います。そういった選択も出てくると思うのですが、内陸と庄内の違いはそうなった場合に、庄内には選択肢が無いということです。行かざるを得ない状況になります。鶴岡につくるということは、酒田の人にとってはかなり大きな負担を強いられるということです。これは、酒田につくれば鶴岡の人にとっても同じことがおきるということです。そういった問題があります。今庄内の人口は30万人ほどです。仮に人口が10万人くらいになれば、進学校が一つでもかまわないと思いますが、今、鶴岡南高校、鶴岡北高校、酒田東高校、酒田西高校は拮抗してがんばっています。そういったことを考えると、まだ時期的には早いのではと思います。もう少し丁寧に検討したほうが良いと思います。先行している東桜学館の事例なども研究してからでも遅くはないし、財政的な問題がクリアできるのであれば、酒田、鶴岡から通いやすいような場所を考えるということがあっても良いと思います。

議長

ありがとうございました。今回協議する事項としては二点、一点目については、庄内地区に中高一貫教育校を設置すべきかということ、二点目については、県が示す設置場所、設置時期についてどうお考えかということでしたが、ただいまの意見は二つまとめてご意見いただいたと思います。私なりに整理しますと、設置の場所という観点では、二つの校舎の距離が500mほど離れており、交流を難しくさせるのではないかという立地の問題がありました。そして、中学校に対する影響としては、各校の上位4～5名、学校によって差はあるかもしれませんが、そういった優秀な、意欲的な子どもが鶴岡に流出し、生徒会や学習指導に影響があるのではないかということが二点目でした。三点目としましては、小学校に対する影響として

受験の指導、相談への対応があるのではないかということでした。四点目としましては、高校への影響ということで、外進生として相当数が入学すると見られ、酒田の進学校への影響が非常に大きいのではないかということでした。また、通学という観点で考えると、1時間ほど時間がかかると思いますので、そういったことが部活等に影響を及ぼすのではないかということでした。こういった観点や現在の人口規模から考えた場合、まだ、時期としては尚早ではないかということと、酒田、鶴岡双方から通いやすいところとしたほうがなお良いのではないかというご発言の趣旨であったと思います。様々な論点をいただきましたので、ご関心のあるところでご発言いただければと思いますが、可能であれば、庄内地区に中高一貫教育校を設置すべきかということについて、論点を絞ってご発言いただければと思います。あらためて設置の時期や場所についてご意見をいただきたいと思います。どなたかいかがでしょうか。

#### 委員

危惧されることはありますが、私は庄内地区への中高一貫教育校の設置に賛成です。その理由として、多様な教育を受ける機会を子ども達に与えなければならないと考えるからです。鶴岡にできたとすれば酒田の上位層が流れるという危惧を酒田市民は持つと思いますが、中高一貫教育校でその子の持っている知識や能力の種が更に花開くのであれば、そこを伸ばすことも必要だと思います。酒田、鶴岡、この庄内地域にその子ども達が帰ってくるかどうかはわかりませんが、日本を背負って立つような優秀な生徒が育つのであれば、そういったチャンスは与えるべきだと思います。また、先ほどより上位の子どもの話が出ております。酒田東高校が進学校でなくなるかもしれないといった話、鶴岡の中高一貫教育校が庄内の一番の進学校になっていくというようなこと、当然危惧されることだと思うのですが、高校は大学に行くためだけにいくわけではありません。不登校で中学校に来れない子を高校ではしっかりと受け止めてくれて、その子を就職させてくれるような学校もありますし、特別な支援を要する子どもを手厚く面倒を見ていただき、社会に適応させながら進学又は就職をさせてくれるといった高校もあります。私立高校でも、部活動で子どもをしっかりと伸ばして日本の上位に入るような子どもを育てている高校もあります。高校をいろいろな子ども達を伸ばして開花させる場であると考えたときに、上位という言い方が良いかどうかわかりませんが、そういった子ども達を伸ばす学校が庄内に一つあっても良いのでは思っております。学力格差、地域間格差、教員の格差が出るのではないかという危惧はありますが、多様な教育を受ける機会を全ての子どもに与えるという意味で賛成したいと思います。

#### 議長

スポーツや特別なニーズを持つ生徒などの事例をあげていただきましたが、上位層に対する学習機会の提供も必要ではないかという、多様な学校の機能を考えた中で中高一貫教育も必要ではないかといったご発言であったと思います。その他いかがでしょうか。

#### 委員

私としても、設置に関しては賛成です。目的にあります多様化を推進して個性を重視した教育の実現、これはこれから必ず必要になってくると思います。学校教育と家庭教育だけではなく、社会教育でも育てていくことが大事だと思います。中高一貫教育は社会教育につながる部分ではないかと思っています。未来を決めるにあたって、中学1年生の段階から高校、大学の進学を検討される子ども達が多いものですから、私達は小学校の4～6年生をターゲットとした人生のターニングポイントとなるような機会を提供するような事業を行っております。次の段階に進む前に多様な価値観をもっていただけるような事業なのですが、どうしても受験勉強に追われてしまって、自分の人生の目的を考える前に受験をするといったことがありますので、そういった意味で必要なものだと思います。

もう一つは、競争力と順応性だと思います。同級生が少ない中で、競争力と順応性を伸ばすということが、昔よりも難しくなっているのは事実だと思いますので、スケールメリットを活かして多くの仲間の中からそういったものが出来上がれば良いのだと思います。

先ほど時期のお話しがありましたが、2040年に酒田市は人口が76,000人になると言われております。今やるべきはわかりませんが、いずれはやらないといけないと思います。もう一つは、部活動の懸念がございました。クラブチームを持たないのは日本だけですが、そういった働きは出てきていると思います。各地域にクラブチームができたとしたら、部活動の問題点も解決するかと思いますので、それに伴ってやっても良いと思います。校舎が離れているとのお話しがありました。これは私も中高一貫の意味がないと思います。多様化という意味を考えても、目的からずれた手法になっていると思います。やるのであれば、きちんと一つの校舎にして、6学年が学べるというスケールメリットを活かしてほしいと思います。そういったメリットを活かせるのであれば賛成です。

#### 議長

基本的には賛成ということで承りました。中高一貫の場合には、進学に際し入試がありませんので、その時間をうまく活用して将来について考えるといった機会を設けることができるであろうという意見であったと思いますし、スケールメリットを活かして、競争力や順応性を高めるような取組みが計画できるのではないかとということ、また、そもそも学校で部活動を行うべきかといったご提案かと思えます。確かに、地域でスポーツ活動を行うといったことは、海外では多く行われております。そういったことも今後検討する必要があるだろうといったご意見がございました。非常に納得いたしました。続きましていかがでしょうか。

#### 委員

庄内地区に設置すべきかという点については賛成の立場です。中高一貫に関しては、全国的に一定程度普及しておりますし、前回の懇談会で委員の方からご発言がありましたが、山形県はすこし遅れている感じですので、県としても県内全地区に随時広げていくという発想で、今回は庄内地区となったのだと思います。今まで無かったものなので不安だということ、根拠の無い不安とまではいいませんが、そういったことでは、時代の波に取り残されてしまうのでは

ないかと思います。子ども達の将来を考えれば、先ほど他の委員がお話しされたように小さい頃からの夢をかなえるために自分はこういった学校に行きたいという子どもに対し、可能性や選択肢を残すのは大人の務めではないかと考えるところです。

議長

ありがとうございました。子どもに対する将来の選択肢を残してあげることが重要ではないかということでもございました。また、根拠の無い不安という言葉が出ましたが、なかなかどうなるのか見えない部分もあるものですから、そういった中でできない理由を探すということもあるかもしれませんが、それよりは子どものことを考えたほうが良いのではないかといったことかと思います。続きましていかがでしょうか。

委員

前回の会議録ですが、一部修正をお願いしたいと思います。4ページの7行目について一部削除をお願いした箇所がありますので、会議録について修正をお願いいたします。

設置については、可能性という視点から考えれば、置かないという選択は無いのかと思います。ただ、気になっておりますのは、やはり校舎が離れているという点です。また、東桜学館は内進生に対する外進生の比率がだいたい1対1ですが、庄内の場合は、だいたい2対1になります。仮に中学校が3クラス99名となったとしても、外進生が2で内進生が1です。中学生の定員が減ればもっと差がつきます。こういった中で中高一貫の成果がどう出るのかと思います。また、鶴岡南高校は理数科がありますが、この場合、40名の定員にどう対応するのか。内進生のうち40名が理数科に行きたいとなったら外進生が理数科に入れなくなるのでしょうか。そういった選抜の難しさについては、これからの運用などで決まってくるのだと思いますが、そういった危惧があります。

中高一貫教育校ができて、優秀な子ども達が集まるといのは、当然のことかと思います。現時点でも学校間の学力差が現実的にはありますし、そういった中で、自分で選んで入るわけですし、それに見合った力をつけようと学ぶわけですから、学力格差が広がるということもあるかと思いますが、そこを目指したい子ども達がいれば、親も応援すると思いますし、選択肢を広げるという意味ではつくらないということはないと思います。

なお、二点目についてもお話しさせていただきますと、鶴岡南高校というステータスに中学校からエスカレーターでいけるということになれば、鶴岡市内の親は目の色を変えてがんばらせるのではないのでしょうか。適性検査と言いながらも、入試のようなものですので受験戦争が激化するのには容易に想像できます。東桜学館は北村山地区の旧楯岡高校が中高一貫になっております。北村山地区では旧楯岡高校はステータスでしたが、北村山地区は山形東高校など、山形市内の学校にも通えます。私も片道だいたい2時間くらい、往復4時間かけて通いました。ですので、通学については、私はあまり危惧しておりません。庄内と内陸にモデル校をつくらと決まっておりますが、北学区に東桜学館ができましたが、東学区にはまだありません。県内全体のレベルアップを図るために、山形東高校にも中高一貫教育を取り入れてはどうでしょう

か。ただ、仮に山形東高校を中高一貫教育校にすれば、庄内と同じような問題がおきるのではないかと思います。庄内では進学校に中高一貫校ができるわけですので、内陸とは違うと思います。それが非常に気になっております。

議長

多様な機会、選択肢を与えるという点では賛成であるということだと思います。いろいろ気になる点をあげていただきました。内進生と外進生の比率が東桜学館と異なり、内進生が少ない中で中高一貫教育の効果が十分出るのかということや、入試の激化の可能性、校舎が離れているということ、県全体の底上げを考えた場合、東学区、山形東高校に導入してはどうかというご意見でした。続きましていかがでしょうか。

委員

設置すべきかという点についてですが、皆様の意見をお聞きしましたが、自分は必要ないのではないかと思います。酒田に関しては高校も新しいですし、あっても人が減るだけであまりメリットは無いのかと思います。鶴岡に関しては校舎が古いとかそういったことがあるのかと思いますが状況がわからないので何ともいえません。子どもの将来性ということですが、この学校に行けばこういうことができるのか、こういった道に進めるといったことを酒田の高校から示していただきたいと思います。単に学力だけで、高校を決めているように見えてしまいます。学校の進学率や進学先など、学校側から中高一貫教育校に負けられないぐらいのプレゼンをしていただきたいと思いました。二点目の時期などについても、私はいららないと思いますので、特に意見はありません。

議長

特に必要性は感じないということでしたが、その一方で、酒田での教育について、単純に学力だけではなく、それぞれの学校のカラーを出してもらいたいということでしょうか。先ほど他の委員からも発言がありましたが、スポーツを伸ばす学校があっても良いでしょうし、学力を伸ばす学校があっても良いでしょうし、それぞれの人材育成像が明確で、この学校に行けばどんな点で活躍することができるということが見えていると良いというようなご発言かと思います。この中高一貫教育校ができることによって、酒田の学校が輝くチャンスとなるのではないかと、そんなメッセージでもあるのかなと受け止めました。続きましていかがでしょうか。

委員

そういったニーズが出てきた環境にあることは理解しますが、現時点での設置には反対です。先ほどのお話にも重なるのですが、この制度が本当に良いのであれば、平成10年に法制化されたわけですので、これまでの20年間で良いという話がたくさん出てきて、山形県ももっと早く取り組んだのではないのでしょうか。高校の再編に絡めて中高一貫教育をやろうというプランにな

っているように見受けられます。教育に関しては、将来のことをしっかり考えて取り組むべきであり、予算が必要であればしっかり予算化して取り組む必要があると思います。高校の再編があるからこれにくっつけるというのでは、順番が違うのではないのでしょうか。

次に、大体良い話というのは山形の方から始まっていくというケースが多いのではないかと思います。生徒数もあちらのほうが多いので影響も少ないと思います。もう一つは来年の3月に東桜学館の中学生が初めて東桜学館高校に進学します。内進生はどのくらい東桜学館高校に進学するのか。そういった数字も見てみたいと思います。また、前回の資料、補足資料4ですが、今後の計画があるのかどうかというデータがございませぬ。例えば、青森県は今1校ですが、今後はいろいろと条件を変えて実施しようかという位置づけのようです。岩手県も1校ですが計画はありません。宮城県は2校で計画なし、秋田県は3校で計画なしです。秋田県の横手清陵学院は開校時から倍率は1を切っております。他は1～2倍強なのにです。こういった事例をもう少し把握する必要があると思います。東北では、山形県以外で計画を持っているのは福島県だけです。環境が似ているところで比較しますと、新潟県、秋田県ですが、新潟県の阿賀黎明中学校、高等学校は募集停止となっております。なぜなのでしょう。柏崎翔洋中等教育学校も志願倍率が0.8台です。近隣の県でもこういった事例があり、判断するのが非常に難しいです。

また、県教委は西学区を田川地区と飽海地区の二つに分けて考えていますが、飽海学区の生徒数は西学区の生徒数の40%以上を占めるにも関わらず、中高一貫教育校について説明会が開かれたことはありません。庄内に1校ということで設置すると言っているのに飽海学区を対象エリアに見ていないということなのでしょう。

また、子どもが通うと考えたとき、7時に酒田駅を出て、7時37分に鶴岡駅に着くことになります。温海であれば、7時3分に電車に乗って7時38分に着きます。清川の人も7時に出て7時37分です。だいたい7時に駅を出ないといけません。親が送っていけば良いのですが、東桜学館のデータでは、半数くらいが電車で通っています。そうすると遅くとも6時くらいには起きて学校に行く準備をしないといけません。中学校1年生が通学のためにそれだけ早起きをして学校にいかなければなりません。鶴岡駅についても学校への移動に時間がかかります。はたしてこの年代の子ども達にとって健全な教育につながるのか疑問です。現段階では、もう少し諸条件が整わない限り賛成はしかねるということです。

議長

現段階では、中高一貫教育校が本当に良いものなのかどうか検討する材料が足りていないため、そういった中で議論するのは難しいということかと思ひます。もう少しデータを見ていく必要があるのではという意見であったかと思ひます。これで、各委員の意見としては一巡したのですが、これまでの委員のご発言等を踏まえて何かありましたら、ご意見をお願いいたします。

委員

何名かの委員から通学についてご発言がありました。時間帯を見ればかなり早い時間に起きて通学をすることになります。帰りも遅くなることと思われます。ただ、実際には、田川地区の高校に望んで通う生徒がいるわけです。そういった生活を始めている子どもがいるわけです。時間帯については、その子が夢をもって選んだ道であるわけで、それを応援する親がいるわけです。ちなみに小学生でも本校では30分はかかりませんが、25分ほどかけてスクールバスで通学する子どもがおります。中学校であれば、片道40分くらいかけてスクールバスで通う子どももいるわけですので、通学時間が長い、起きるのが早いということだけで設置を否定してもいいのかなという気持ちがあります。否定するわけではないのですが、自分で選んで進む道ですので、それはそれで良いのではと思います。

委員

高校生と中学生では違うと思います。12歳の中学生が電車を乗り継いで長い時間をかけて通学するというのは、どうなのかと思うのです。

委員

都会では、小学生がランドセルを背負って電車に乗っています。

委員

5分に一本電車がくる環境とは違うと思うのです。

委員

確かに一概に同じではないですが、望んで進みたいという人達にとってはどうかなと思います。

議長

それぞれの考え方があるので、それを否定できるものではないということかと思えます。一点目の質問につきましては、概ねご意見をいただき、様々な観点からご発言をいただきました。意見がまとまったということではございませんでしたが、一定の意見交換はできたと思えます。

続いて、二点目の県が示す設置場所、設置時期について、委員の皆様にお伺いして協議したいと思えます。既にご存知のことではありますが、県は、平成29年10月5日に田川地区の県立高校再編整備計画<第2次計画(骨子案)>を公表し、鶴岡市に併設型中高一貫教育校を設置する案を検討しております。また、設置の時期については、平成36年度までの開校を目指すとしております。仮に平成36年(2024年)4月1日に開校するとすれば、今年度の小学1年生が中学校の第1期生として入学することとなるスケジュール感ということです。それでは、設置場所、設置時期について、ご発言いただきたいと思えます。既にご発言いただいている委員もおりますが、改めてご発言いただいてもけっこうですので、

よろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

#### 委員

一巡したので、2回目の発言をさせていただきたいと思います。中高一貫教育校については、公立だけではなく、国立や私立があります。よく甲子園などで活躍している学校の中には、中高一貫教育校があるわけですが、あれは私立が多いと思います。勉強もできてスポーツもできるのかいうとそうではなく、勉強をする人、スポーツをする人と分けている学校が多いです。マンモス高校に多いのですが、部活もすごければ学力もすごいといった学校はやはり別々に募集しているようです。ところが、公立の場合は、山形県もそうだと思うのですが、スポーツ推進校ということでは考えていないと思います。やはり部活動を徹底的にやるというのは難しいと思います。

また、前回の説明を聞いて思ったのですが、高校再編は、少子化でどの地区でも行われております。酒田を中心とする北庄内は早い方だと思うのですが、山形市周辺は、そんなに減っていないので学級減などで対応しているようです。置賜地区はかなり人口が減っているので、高校を減らさないといけないのですが、ご存知のとおり東南置賜はほとんど減っていません。2段階で高校再編をやっているようです。田川地区も子どもが減ってきているので、高校を整理したいということだと思いますが、その問題と中高一貫教育校設置は別の問題だと思います。高校再編は必要だと思います。ただ、一緒になって動いてしまうのは違うと思います。東桜学館は再編とは違ったと思います。田川地区の高校再編と一緒に動いているので、急がされているという思いが強いです。もう少しゆっくり住民の理解を得てやっていっても決して遅くはないと思います。田川地区の高校再編をやるのは結構なのですが、中高一貫教育校の設置と一緒に動かそうとしているところに問題があると思います。他の地区はこういったことはしていないわけです。置賜の高校再編に中高一貫はできません。非常に特異な出方だと思います。

これは感想になりますが、昔、庄内に進学校は1校しかありませんでした。鶴岡の庄内中学です。そのときは、酒田にはなかったので、酒田の人は下宿をして通ったと聞いています。それから、30年ほど経った後にやっと酒田中学ができました。酒田、鶴岡それぞれに進学校をつくってやってきたという経緯があります。また、庄内中学のようになるのではないかという危惧を感じました。

#### 議長

高校の再編と中高一貫教育校の設置は別の問題として捉えるべきである、住民の理解を得てからでも良いのではということと、庄内に進学校が一つだった時代に戻ってしまうのではないかという危惧があるのご発言であったと思います。続いていかがでしょうか。

#### 委員

モデル校をつくるということで、県の計画では一つとなっていますが、後々ではありますが、

酒田、鶴岡に一つずつつくるのが必要なのではと思います。ただ、現段階では一つですので、一つだとすれば、電車やスクールバスなどのインフラ整備が無ければ難しいと思います。駅の近くであればなおさら良いのではと思います。また、時期については、人口の減少が続いており、100人若者が出て行って帰ってくるのは30人です。本来であれば、設置は早ければ早い方が良いのかと思いましたが、皆様の意見をお聞きしますと、やはりもう少し議論が必要なのではと思います。2040年では遅いのはわかっていますが、2024年の目標が妥当なのかわかりません。ただ、根拠は無いのですが2020年代には必要ではないかと思っています。

議長

できる限り早い方がよいが議論をしっかりと行ってからということかと思っています。必要ないという意見もありましたが、いかがでしょうか。

委員

先ほど必要ないのではと意見しましたが、寮をつくることはできないのかなと思います。寮がある学校であれば、通学の心配も少なくなると思いますし、そういった人間関係を築ける学校であれば、家から通う子よりも成長するかもしれません。

議長

寮で共同生活を営む上での成長も期待できるということかと思っています。他にいかがでしょうか。

委員

どうして平成36年度なのかと思って調べたのですが、県立高校再編の計画の期間が平成27年度から平成36年度ということなのですね。それで目処としているのかと思うのですが、設置までにどれだけの期間が必要なのか十分理解ができていないので、時期について明確な意見は申し上げられないのですが、場所については、庄内の真ん中に建てましょうという訳にもいかないと思います。確かに高校再編とは別問題なのだと思いますが、一緒に考えたほうが良いことなのではと思います。

議長

現実問題として、一緒に考えたほうが進めやすいのではというご意見であったかと思っています。他にいかがでしょうか。

委員

酒田の中学生は約3,000名です。田川地区はその1.3から1.4倍かと思っています。まだ生徒数が多いというのが現状です。飽海地区は、来年度飛鳥中学校から生徒がいなくなりますが、現在中学校が8校あります。大きな学校で酒田三中与酒田四中が生徒数500名程度、酒田一中や

酒田六中で 400 名程度、他は 200 名から 300 名です。もし、酒田飽海地区に県立の中学校ができれば 3 学年で 300 名生徒が通うこととなります。そうすると大規模校が大規模校で無くなるという現状があります。大規模校には大規模校の勢いというか、それなりに特色がつけられるということがありますので、もしそういったことがおきるとどうなるのだろうと考えてしまいます。

鶴岡市が中高一貫教育校の設置に手をあげているわけですが、鶴岡一中や鶴岡三中は 600 名程度の規模を確保していますので、子どもが抜けてもまだ大規模校として残れます。そういったこともあるのかなと思います。また、先端研に通う方達の子どもが入ってくるということも影響していると思います。現状では、酒田市内に中高一貫教育校ができれば厳しいかなと思います。

議長

酒田市内であれば、通いやすくて良いとも思いますが、中学校への影響はあるだろうということだと思います。続きましていかがでしょうか。

委員

目標年次が平成 36 年度で、設置場所が鶴岡ということですが、先ほどから皆様お話しされておりますが、平成 36 年度というのは、田川地区の高校再編と一緒にということだと思います。場所が鶴岡というのは、鶴岡南高校と鶴岡北高校の校舎が使えるからということだと思います。事前の県の意向調査の時には、どの市町村も手を挙げず、その後、鶴岡が手を挙げたということで、県教委の意向と鶴岡の意向がマッチしたということだと思います。ですので、今になって酒田の方で真ん中につくるとか、両方につくるといった議論にはならないのではと思います。酒田の方が圧倒的に中学生の数が少ないですし、ある程度周辺の中学校に影響を及ぼさないような生徒人口という計画骨子があるので、場所が鶴岡ということはやむを得ないのではと思います。平成 36 年度の年次設定ですが、東桜学館の中学校 1 期生が高校を卒業するのが、平成 34 年です。その時期になれば一定の検証ができると思うので、36 年度はやはり少し早いのではと思います。先ほど、高校再編と中高一貫教育校の設置は分けて考えたほうが良いとのご発言がありましたが、私も時期については、別に考えるべきかと思います。最初からそこにフォーカスするのはどうかと思います。

議長

時期については、必ずしも平成 36 年度ということではなくてということかと思います。ただ、場所については、これまでの議論の経緯などもあるので鶴岡でよいのではないかということかと思います。続きましていかがでしょうか。

委員

私が聞いているところでは、平成 36 年度というのは、第 6 次の山形県の高校再編整備計画

ということでございました。平成 37 年度から第 7 次の計画に入るということで、来年度あたりからこの検討に入ると聞いております。現在は、酒田東高校が 5 クラス、鶴岡南高校が 5 クラスです。そして、この中高一貫教育校の高校は 7 クラスとのことでした。人口がこれだけ減っている訳ですので、将来的には、酒田か鶴岡の進学校どちらかがいなくなる。今回設置する中高一貫教育校を庄内唯一の進学校にしていく。そういった話につながりかねない計画だと思います。それを心配しております。

ただ、いずれにせよ人口減少などで、そういったニーズに対応せざるを得ないという事情が出てくるということもわかりますし、財政的な事情から高校再編と一緒にということもわかるのですが、教育については、長期的な展望で力のある、日本を引っ張るような人を育てないといけないわけですので、高校再編につけるのが中高一貫教育ではなくて、最初から線を引いてゼロから向かうというのが本来の姿だと思います。また、5 クラスと 5 クラスが一つになって 7 クラスということになると、飽海学区に中高一貫教育校が一つ、田川学区にも中高一貫教育校が一つということは難しいと思いますので、この 1 校で庄内は決まりなのだと思います。そういうことを考えると、単純な話しですが、庄内の人口比を考えたときに中心の位置ほどの辺りかと思うと、余目あたりが、清川方面や遊佐方面、温海方面からの結節点になると思いますので、つくるとすればそういった判断もあるのではないかと思います。

議長

やはり、中高一貫教育校については、高校再編とわけて考えるべきで、設置の場所も含めて慎重な議論が必要であろうということかと思えます。

こちらにつきましても、意見が一巡をしたところですが、各委員の意見を聞く中で、追加でご発言はございますでしょうか。時期については、平成 36 年度ということではなく慎重な対応が必要とのご発言が多かったと思います。場所については、県の案である鶴岡という発言もあれば、再検討が必要とのご発言もありました。本日の段階では、意見を集約することが目的ではありませんので、各委員より自由にご発言をいただきました。本日、二つのテーマで意見交換を行いました。それ以外のテーマで皆様から何かございますでしょうか。

委員

横手の中高一貫教育校の志願倍率が低いのが気になりました。直近が一番下がっております。また、新潟の学校もそうでした。なぜなのかといったことについてお聞きできればと思います。

議長

事務局で調べることは可能ですか。

事務局

3 回目の懇談会まで県などに確認しながら、ご報告させていただければと思います。

## 議長

その他いかがでしょうか。本日は、庄内地区への中高一貫教育校の設置について協議を行い、多くの意見交換ができたと考えております。次回は、今回の協議の結果を踏まえて懇談会としての意見をまとめることができればと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。これをもちまして議事の1、庄内地区への中高一貫教育校設置についての協議を終了いたします。

それでは、議事の2、その他ですが、皆さまから何かありますでしょうか。

特にないようですので、これをもちまして議長を下ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

## (2) その他

特になし。

## 4 その他（事務局）

事務局より次回開催日程を連絡。

## 5 閉会（事務局）